

二宮早由子：野村義広氏により保存されたクロキヅタ

仕事を兼ねて、筆者は20年近く、愛媛県西宇和郡伊方町の海藻の生育調査を行っている。最近のこの伊方町でのクロキヅタ再発見のニュースを聞き、野村義広という研究者によってこの海藻が保存されていることを紹介しようと思った。

数年前の夏、北海道大学理学部の標本庫を訪れる機会があり、野村義広氏が伊方町で採集された標本が数多く所蔵されているのに気付いた。標本総数は約163点で、未同定種を含めて79種が所蔵されている。これらの標本は種の同定依頼のために、当時在籍しておられた山田幸男教授に送られたとのことである(山田1956)。野村氏は、クロキヅタの新生息地に関する報告などを「藻類」に発表されており(野村 1957, 1958, 1959)、藻類学会への貢献は少なくない。ここに、愛媛県伊方町の熱心な植物研究者野村義広氏の略歴を紹介し、氏とクロキヅタとの関わりについて紹介する。

本稿をまとめるにあたって、朝子夫人とご子息の野村安孝氏からお伺いした話と、後述する氏の句集「クロキヅタ」を参考にさせていただいた。

野村義広氏 略歴

- 明治31年(1897) 愛媛県西宇和郡三瓶町和泉に生まれる。
- 大正6年(1917) 愛媛県立農業技術員養成所、農業普及員として勤務。
- 大正12年(1923) 愛媛県内の中学校、高校の教員として勤務。
- 昭和29年(1954) 伊方中学校退職。同年、伊方仁田之浜海中で自生『クロキヅタ』を、また、出石寺付近で『トゲヤマルリソウ』を発見、報告。
- 昭和34年(1959) 日本シダの会に標本を送付提出。また、八幡浜地方の植物方言を詳細に調査報告する。同年、四国南西部沖の島付近に『クロキヅタ』の自生場所のあることを発見(野村 1959)。
- 昭和35年(1960) 『愛媛県におけるタマシダ自生地の北限』『シモツケヌリトラノオの新生地』を発表。
- 昭和37年(1962) 国立科学博物館の第26回おしぼ展に出品、以来計6回出品。
- 昭和39年(1964) 愛媛県鹿野川ダムで四国産の新記

録である『コバノチョウセンエノキ』を発見、報告。

昭和45年(1970) 伊方町湊浦の自宅にて逝去。享年73歳。

氏は牧野富太郎博士、山田幸男博士、京都大学、東京大学に数々の植物標本を送られていた。北大に寄贈された標本から推定すると、海藻の採集を始められたのは1952年頃からと思われる。氏は主に宇和海から佐田岬にかけて精力的にご自身で調査され、厳寒のころも夜遅くまで標本を作成されておられたとのことである(夫人談)。婦人が心配すると、『わからないものはどんどん先生に送って調べて戴くから、少しも苦勞とは思わない。こういう人間が各地にいることが大切だ』と話しておられたとのことである。

クロキヅタの貴重な生育地の保護に強い関心を持たれておられたことが、高知県沖ノ島からの該種の報告原稿に添付された日本藻類学会宛の手紙(昭和34年6月6日付)から推察される。以下に原文のまま引用する。「伊方町仁田之浜海岸のクロキヅタは今年になり更に北方へ百米蔓延し目下仁田之浜海岸線六百米にわたり蔓延し、最低潮線三十糎より(海水面上一尺位出る)最低潮線下二米(またはそれ以下)の岩礁又は石上に群生(群生箇所十一箇所)し、葉状体体高七糎より大なるもの二十七糎にもなり、盛に生育してをり、現在の状態であれば絶滅することは先づないだらうと考えられます。御報知申し上げます。」野村氏の手紙は



図1. 伊方町湊浦の係留ロープに付着繁茂するクロキヅタ(水中写真)。

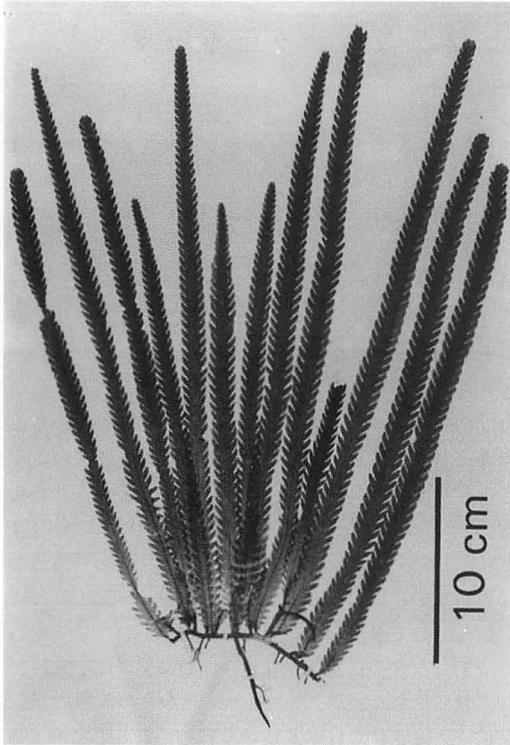


図2. クロキヅタの標本写真。

投稿原稿に添えて送付された乾燥標本と共に、北大理学部標本庫に保管されている (SAP 028259)。

筆者はクロキヅタを見るために伊方町湊浦の漁港へ行った。そこで故野村氏の教え子だった漁師さんたちにお会いし、昔話をいろいろ伺ったが、貴重な海藻であると教えられ、石に結び付けては海中に投入し、繁殖させて、今でも非常に大切にしているということであった。港の中の海底にはこの海藻がたくさん繁茂し、一部は船を係留するロープに付いて水中に浮いた

状態で繁茂していた(Fig.1)。また、町役場にはおしぼ標本が展示してあり、大切に保管されていた。

野村氏は野村螺岳泉としても知られる俳人であり、著名な詩人高橋新吉氏の詩碑と並んで伊方明治公園に氏の句碑が建立されている。また、朝子夫人によって編まれた氏の句集「クロキヅタ」は1983年に出版されている。

クロキヅタに限らず野村氏が伊方町で丹念に調査され、作成された標本は実際の研究に有効に活用されており(Yoshida 1983)、今後の海藻の種属誌の研究にも大いに貢献し続けることであろう。氏の努力によって長年大切に保存生育されている、伊方町のクロキヅタの標本写真(Fig.2)を掲載し、貴重な生育地が急激な環境変化によって失われることのないよう祈りたい。

終わりに、標本の同定には吉田忠生博士に、資料提供等には増田道夫博士にご助言、ご協力いただきました。お礼申し上げます。

参考文献

- 野村義広 1957. クロキヅタ *Caulerpa scalepelliformis* (R. Brown) Ag. var. *denticulata* (Decsn.) Weber van Bosse の一産地. 藻類 5:25.
- 野村義広 1958. 愛媛県に於けるイソスギナ・クロキヅタ・シマソゾの北限自生地について. 藻類 6:107.
- 野村義広 1959. クロキヅタ *Caulerpa scalepelliformis* (R. Brown) Ag. var. *denticulata* (Decsn.) Weber van Bosse の新産地. 藻類 7: 97-98.
- 山田幸男 1956. シマソゾ (*Laurencia amabilis* Yamada) の新産地. 藻類 4: 97-98.
- Yoshida, T. 1983. Japanese species of *Sargassum* subgenus *Bactrophyucus* (Phaeophyta, Fucales). J. Fac. Sci. Hokkaido Univ. Ser. V (Botany) 13: 99-246.
- ((株) 東京久栄 〒333 川口市芝鶴ヶ丸 6906-10)